

『都市研究』

兵庫県都市研究会発行

第1巻第1号（1925年2月）～第33号（1939年9月） / A5判 / 雑誌番号OPT-47

本館では兵庫県都市研究会の機関誌『都市研究』を第1巻第1号から第33号までの33冊所蔵している。同誌は当初年4～5回の発行であったが、後半は年1回程度の発行となり、1937年と1938年には発行されていない。

第1巻第1号に掲載されている「本会設立の経過」によると、その発端は神戸市会議員の有坂忠平が開催した欧米の都市計画関係資料の展覧会において、神戸市会議長の勝田銀次郎が都市計画に関する宣伝、研究を行う自治的機関の設立を発議したことであったという。

後に神戸市長を務めることとなる勝田は、1924年10月に開催された発起人会において兵庫県都市研究会の会長に選出された。1925年1月時点の会員数は300名と記されている。兵庫県都市研究会の事業には、都市計画に関する調査並に会員研究事項の発表をなすこと、講演会・講習会・展覧会を開催すること、都市計画に関する図書を刊行し会員に配布又は発売することなど6項目が挙げられている。

『都市研究』に掲載された論文は、神戸市の都市計画、六甲山などの山地開発、交通機関や港湾の整備に関するものが多い。また1925年6～7月に開催された都市計画の知識普及のための「都市計画巡回展覧会」、1928年4月に開催された山地の利用についての知識普及と世論喚起を目的とした「開けゆく山の展覧会」について、その様子が報告されている。1927年8月には平田紀一（内務省都市計画課長）ら13名の講師を招請し、全国から170余名の参加者を集めて都市計画講習会が開催され、その模様の報告のほか、「中小都市に於ける計画」（大藤高彦・京都帝国大学教授）などの講演録も掲載されている。

特集が組まれている号もある。1927年9月発行の「街路網号」（第3巻第4号）は、同年3月に神戸都市計画街路網が内閣において認可されたことを受けたもので、巻頭には神戸都市計画街路図が綴じ込まれ、神戸都市計画街路網の内容や法律上の効果が解説されている。1931年10月発行の「高架線開通記念号」（第25号）は、長年の懸案であった神戸市内縦貫鉄道改良の第一期工事が竣工し、同月10日に灘一鷹取間の高架線の運転が開始されたことを記念したもので、関係者のコメントや鉄道改良問題の沿革、工事概要、図面などが掲載されている。

この後、「山地開発観光施設特輯号」（第26号 1932年1月）、「都市財政経済号」（第27号 1933年2月）、「都市問題特輯号」（第30号 1934年1月）、「特別市制 建築・電力・港湾特輯号」（第31号 1935年1月）と特輯号が続き、次第に都市問題など広範囲の主題が論じられるようになっていく。

第33号（1939年9月）は神戸都市協会が発行している。巻頭の「神戸都市協会趣意」において、兵庫県都市研究会からの改組が表明され、その事業として機関雑誌『都市研究』の発行が挙げられている。しかし本誌が第34号以降発行されたかどうかについては不明である。なお、本誌以外に兵庫県都市研究会が発行した資料として『神戸市民と特市問題』（1936年4月 図書番号OAZ-0244）を所蔵している。

（山野辺香葉・市政専門図書館司書主任）